書く、を支える。

PILOT

株式会社パイロットコーポレーション

www.pilot.co.jp

〒104-8304 東京都中央区京橋2-6-21　☎ 03-3538-3700（大代表）

2021.3

CORPORATE PROFILE

およそ百年前、
ひとりの船乗りが、
世界に誇れる万年筆を
つくろうと思い立った・・・
彼が挑んだ”紙の上の冒険“
それが、私たちの始まりです。

創業者　並木良輔の冒険

明治30年代の半ば、商船学校を卒業した並木良輔は、海外貿易を担う貨物船の機関士として船上にいました。そこで数多くの”舶来品“に接するうちに、「いつか日本から世界に誇れるものを送り出したい」と夢を抱くようになりました。その思いは、学校での教え「七洋を家とし、海外に飛躍せよ」と重なっていたに違いありません。

明治39年、並木は母校の教授に就任。ある日、製図の授業に使う道具「烏口」の扱いに苦労している学生を見て、軸にインク貯蔵部を設けた「並木式烏口」を開発、特許を取得します。

並木の探究心は、やがて万人が使える万年筆へと。書くという”紙の上の冒険“は、さらに進みます。並木の研究において最初の難関はペン先の先端部であるペンポイントでした。「並木式烏口」の開発時から、ペン先の摩耗に悩まされ続けていたのです。しかし、答えは船の上にありました。並木は外国製の万年筆のペン先の先端部にイリジウムという硬質の金属が使われていることを知り、それが奇遇にも潮風にもさびない羅針盤の支持ピンと同じ素材だったのです。そのイリジウムに着目することが契機となり、並木の研究は大きく前進していきます。しかしながら、あと一歩のところで資金繰りに行き詰まってしまいました。この窮地を救ったのが、それまで何度も援助をしていた和田正雄です。和田と並木は、船乗り時代に船上で出会い、将来の夢を語りあった親友でした。和田の惜しみない援助を得て、純国産初の万年筆が誕生したのが大正5年2月9日。その2年後、並木と和田は、株式会社並木製作所を設立しました。「書く、を支える。」パイロットコーポレーションの世界への旅が、ここから始まります。

書くことに、限りない情熱を。

最高級から最新技術まで、”書く世界“を限りなく広げたい。

「書く」という人間ならではの知的営みを支える企業であるために。

「書く」という行為は、人が考え、文字に表し、読み、理解する、という知的営みにかかわっています。エジプトの象形文字、中国の木簡、竹簡の時代から、漢字、かな、現代のさまざまな文字に至るまで、「書く文化」は世界中で人と人とを結びつけ、人類の発展に寄与してきました。

パイロットは、「書く」を1世紀近くにわたり見つめ、支え続けています。そして「書く文化」を次代へ伝えるために、製品づくりを通じてその一翼を担いたいと考えています。

パソコンや携帯が主流の現代ではありますが、肉筆には、筆圧や文字の揺らぎ、そして人ならではの個性があり、温もりがあります。「書く」ことは、気持ちを届け、考えを伝え、人と人とをつなげるものだからこそ、人の個性や温もりを感じられる製品をお届けしたい。私たちの製品は、すべてのお客様への、私たちからのメッセージです。

あらゆる筆記具の領域で、深化を続けています。

万年筆から始まったパイロットの筆記具事業は、時代とともに、新たな筆記具領域——ボールペン、シャープペンシル、マーキングペン等——へと大きく展開してきました。あらゆる「書く」を支えるために。私たちは筆記具の世界のオールラウンダーでありたいと考えています。

そしてパイロットは、日々それぞれの筆記具の深化を続けています。常にお客様に「書く」快さ、楽しさ、便利さをお届けしたい。私たちはあらゆる筆記具において、エキスパートでありたいと考えています。

私たちには無限の夢があります。しかしその前には荒波が横たわっています。私たちはこの荒波を乗り越え、夢を一つひとつ実現してきました。その結果生まれた製品だからこそ、品質と機能には徹底的にこだわっています。そしてこれが、筆記具における「パイロット＝水先案内人」としての、自信と誇りです。

最先端の先端をめざして。

Pen point

万年筆のペン先には、イリジウム合金が溶着されています。大正時代に、加工困難なこの特殊合金の製球、溶接に成功し、純国産万年筆を初めて製造しました。それ以来、一貫生産を行っています。

ボールペンのペン先には、1964年に他社に先駆けステンレスチップを採用。磨耗に強く耐久性があり、最後までスムーズなボール回転を保ちます。

極細ボールペンのペン先には、細いパイプの先に3つのくぼみをつけてボールを支える3点支持方式を採用。通常のボールペンに比べて摩擦面積が少なく、自然なボール回転が可能です。

Ink

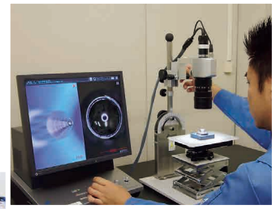
温度変化で消えるインキ「フリクションインキ」、ガラスにも書けるボールペンのインキなど、多彩なインキを開発。

技術の蓄積の上に、新たな筆記具の可能性を追求しています。

筆記具の可能性を追求するための研究開発は、主にペン先とインキの両面からアプローチしています。

万年筆のペン先開発では、何よりも「書き味」が重視されます。ボールペンにおいては、その「書き味」へのこだわりを受け継ぎつつ、ミクロンスケールを越えた加工精度がもたらす圧倒的な高品質と、斬新な発想による新たな機構の開発が、画期的な新製品の誕生を支えます。そしてもうひとつ重要な要素が、インキの開発です。インキの新しい機能開発により、「書き味」の向上をめざすのはもちろん、インキに「消せる」「滲まない」「金属やガラスに書ける」「布に書ける」などの機能性を持たせることにより、当社はボールペンの持つ可能性を大きく広げてきました。

また当社の開発者は、筆記具が使われる「現場」のことを決して忘れません。デザインに人間工学的視点を取り入れ、「長く使っても疲れない」筆記具を実現するなど、あらゆる方向から「書く」を支える製品開発に取り組んでいます。開発においても、常に「パイロット＝水先案内人」でありたいと考えています。



筆記具開発の技術を応用して、新たな事業分野へ展開しています。

筆記具開発において決して妥協しない姿勢が、高度な技術を育て、その技術がさらに新たな分野を開拓しています。

筆記具の傍らで使われるさまざまな文具を販売する文具事業において、紙とペン以外の筆記方法として、磁気による筆記システムである磁気ボードを開発したのは、パイロットです。万年筆のペン先加工で培った貴金属特殊合金の製造技術や高度な加工・加飾技術は、高品質なマリッジリングを市場に送り出すとともに、次々に新しい素材と斬新な製品を生み続ける宝飾事業を確立しました。

インキの技術を応用したプリンタ用インクリボン事業は、トナーカートリッジリサイクルなどのOA関連製品事業に発展しています。

また、シャープペンシル芯の製造技術を活用することで可能となった、高精度セラミックス成型技術を基盤としたセラミックス事業も注目されています。

このほか、温度変化で色が変わるメタモインキや、水で描くと発色し乾けば消えるハイドロクロミックインキ等の特殊インキ技術を応用した玩具事業など、パイロットは「書く」を根幹にして、さまざまな分野の事業を展開し、活躍しています。

「Pilot Bridal」

トナーカートリッジ
リサイクルサービス

セラミックス事業

メタモインキを応用した玩具
「メルちゃん」

日本のブランドから、いち早く世界のブランドへ。

創業者・並木良輔と和田正雄から始まった夢は、早くも1926年には世界進出を果たし、その後、世界ブランドへと飛躍しています。

事業の変遷

1918（大正7）年　並木良輔が、和田正雄の協力を得て「**株式会社並木製作所**」創業。万年筆製造・販売開始

創業者・並木良輔、和田正雄

創業当時の本社（日本橋）

1926（大正15）年　ニューヨーク・ロンドン・上海・シンガポールに支店並びに海外販売拠点開設　高級万年筆発売　欧米市場開拓時に輸出

蒔絵室の様子

1938（昭和13）年　社名を「**パイロット萬年筆株式会社**」に改称

ダンヒル社と代理店契約調印式後の晩餐会

1930（昭和5）年　ダンヒル社と欧州販売代理店契約

1948（昭和23）年　旧海軍火薬廠の跡地に平塚工場開設

1950（昭和25）年　「**パイロットインキ株式会社**」（旧名古屋インキ工場）設立

当時の平塚工場敷地

1960（昭和35）年　「**パイロット機工株式会社**」設立。

1962（昭和37）年　平塚総合工場竣工

平塚総合工場の竣工（神奈川県平塚市）

1962（昭和37）年
交通機関をストップさせた京橋名物の初荷風景（本社前）

1975（昭和50）年　「**パイロットプレシジョン株式会社**」設立
※パイロット機工株式会社に十月改称

1978（昭和53）年　伊勢崎工場開設
旧東京工場（東京都板橋区東坂下）から移転

伊勢崎工場の開設（群馬県伊勢崎市）

1989（平成元）年　社名を「**株式会社パイロット**」に改称

2002（平成14）年　株式移転により「**株式会社パイロットグループホールディングス**」設立
（東京大阪証券取引所第一部上場。その完全子会社となる）

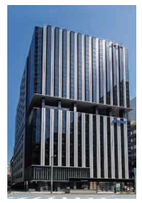
2003（平成15）年　株式会社パイロットグループホールディングスと合併し、社名を「**株式会社パイロットコーポレーション**」に改称

2008（平成20）年　パイロットプレシジョン株式会社と合併

2009（平成21）年　湘南開発センターを開設　平塚工場建替え

2015（平成27）年　株式会社パイロットロジステムの社屋、物流倉庫を建替え

2019（令和元）年　本社ビル建替え


パイロットコーポレーション本社

1910's　1920's　1930's　1940's　1950's　1960's　1970's　1980's　1990's　2000's　2010's

製品の変遷

1918（大正7）年　**純国産万年筆**製造・販売開始

1916（大正5）年　並木良輔が初の純国産**14金**ペン完成

大正時代のペン先

木製軸に14金ペンを取りつけた製品第一号「パイロットペン」

1925（大正14）年　**シャープペンシル**製造・販売開始
万年筆の軸材の劣化を防ぎ、世界に誇る日本独特の蒔絵万年筆の製造を可能にした**ラック**カイト技法を考案

1927（昭和2）年　万年筆の製造・販売開始

1930（昭和5）年　「**ダンヒル・ナミキ万年筆**」ヨーロッパで発売

「ダンヒル・ナミキ万年筆」

1948（昭和23）年　**文具品**販売開始

1955（昭和30）年　繊細な書き味と斬新なデザインで国内外の人気を得る。文具業界の花形商品「**パイロットスーパー万年筆**」発売

「パイロットスーパー万年筆」

1959（昭和34）年　油性マーキングペン「**スーパーカラー**」の生産を開始する

1961（昭和36）年　高級万年筆の技術を活かした**高級ボールペン**製造・販売開始

1963（昭和38）年　世界初のキャップのない万年筆「**キャップレス**」発売（翌年パリで開かれた国際ギフトショウで最優秀オスカー賞を受賞）

「キャップレス万年筆」

1964（昭和39）年　耐摩耗性に優れるボールペンの**ステンレスチップ**の製造開始、市場シェアを拡大
郵政省に認められたカーボン紙技術を転用、コンピュータ市場の将来に着目し**コンピュータリボン**製造・販売開始

1966（昭和41）年　黒板に代わる筆記システム、**ホワイトボード**、**ホワイトボードマーカー**の国内初の製造・販売開始

1965（昭和40）年　ステンレスチップを利用した世界初の**0.5mm極細手用ボールペン**の製品化に成功

1968（昭和43）年　パイロット技術の集大成、ショートタイプ万年筆「**エリートS**」発売
（翌年放送された大橋巨泉によるCMはっぱふみふみ」でも有名）

「エリートS」

1969（昭和44）年　**ニューホワイトボード**製造・販売開始
学校施設用品分野の新規開拓を果たす

1971（昭和46）年　現代の日本人にあった、日本の文字のための万年筆「**カスタム**」シリーズ発売

「カスタム」

1972（昭和47）年　**貴金属・宝飾品類**製造・販売開始

1976（昭和51）年　かすれにくく、軽くてくっきりとした筆跡が特徴の**水性ボールペン**販売開始

1977（昭和52）年　磁気による筆記システム**「磁気パネル」**の開発

1978（昭和53）年　振るだけで芯が出る「**フレフレシャープペンシル**」発売

「ハイテックポイント」

1980（昭和55）年　ステンレスパイプチップによる水性ボールペン「**ハイテックポイント**」発売

1991（平成3）年　首肩腕への負担を軽減する「**ドクターグリップ**」発売

1993（平成5）年　首肩腕への負担を軽減する「**ドクターグリップ**」発売

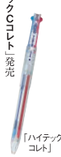
「ドクターグリップ」

1994（平成6）年　0.3ミリボールの微細ボールペン「**ハイテックC**」製造・販売開始

1993（平成5）年　**ゲルインキボールペン**の製造・販売開始

「ハイテックC」

1998（平成10）年　ノック式ゲルインキボールペン「**G-2**」発売


「G-2」

2005（平成17）年　自由に選べる多色ペン「**ハイテックCコレト**」発売

「ハイテックCコレト」

2006（平成18）年　温度変化で筆跡が消えるボールペン「**フリクションボール**」発売

「フリクションボール」

2008（平成20）年　なめらかに書ける低粘度油性ボールペン「**アクロボール**」発売

「アクロボール」

2013（平成25）年　シンプルで使いやすいジュニア世代の万年筆「**カクノ**」発売

「カクノ」

並木式鳥口ポスター

1919（大正8）年　電車の中吊り広告

1921（大正10）年
ポスター

1926（大正15）年
ポスター

1936（昭和11）年
のポスター

1938（昭和13）年
ポスター

1950（昭和25）年
ポスター

1964（昭和39）年
ポスター

1969（昭和44）年
大橋巨泉によるテレビCM

1995（平成7）年「ハイテックC」
テレビCM

2012（平成24）年　企業広告
「単身赴任篇」テレビCM

2019（令和元）年
企業広告
「泣くか。食べるか。
書くか。」
新聞広告

その時代の出来事

1910（明治43）年　夏目漱石「門」発表
第5回オリンピック大会に日本初参加

1912（大正元）年　第1次護憲運動

1913（大正2）年　最後の将軍・徳川慶喜「77歳」他界

1914（大正3）年　第1次大戦勃発

1918（大正7）年　第1次大戦終結

1920（大正9）年　国際連盟発足

1922（大正11）年　アインシュタイン来日

1923（大正12）年　関東大震災
大西洋無着陸横断飛行に成功

1927（昭和2）年　リンドバーグ
大西洋横断飛行に成功

1929（昭和4）年　ニューヨーク株式市場の大暴落（世界恐慌始まる）
ラジオ体操が始まる

1931（昭和6）年　満州事変始まる

1932（昭和7）年　国内のラジオ聴取契約100万件突破

1933（昭和8）年　日本が国際連盟脱退

1936（昭和11）年　二・二六事件

1937（昭和12）年　日中戦争始まる

1939（昭和14）年　第2次大戦勃発

1941（昭和16）年　日米開戦、太平洋戦争始まる

1945（昭和20）年　第2次大戦終結

1946（昭和21）年　NHKラジオ番組「のど自慢」がスタート

1947（昭和22）年　人気ラジオドラマ「鐘の鳴る丘」放送開始

1948（昭和23）年　美空ひばりデビュー

1949（昭和24）年　戦争で中断していた、日本ダービー復活
湯川秀樹（日本人初のノーベル物理学賞受賞）

1950（昭和25）年　朝鮮戦争勃発

1951（昭和26）年　日米安全保障条約調印

1953（昭和28）年　NHKのテレビジョン本放送開始
民放テレビジョンも開局する

1954（昭和29）年　国際連合加盟

1956（昭和31）年　スプートニク一号打ち上げ成功
ソ連（現ロシア）、人工衛星

1957（昭和32）年

1960（昭和35）年　NHKテレビジョン本放送開始
朝日放送、民放テレビ放送がウクライナ
本放送開始する

1962（昭和37）年　堀江謙一ヨットで太平洋横断航海成功

1964（昭和39）年　東京オリンピック大会開催
東海道新幹線開業

1965（昭和40）年　朝永振一郎博士、ノーベル物理学賞受賞

1966（昭和41）年　ザ・ビートルズ来日

1968（昭和43）年　米アポロ11号、初の月面着陸に成功
川端康成、ノーベル文学賞受賞。三億円事件

1969（昭和44）年　米国、ベトナム戦争泥沼化

1970（昭和45）年　大阪で日本万国博覧会開催

1972（昭和47）年　沖縄が日本に返還される

1973（昭和48）年　石油ショック

1974（昭和49）年　「バブル経済」崩壊

1980（平成2）年　日本人初の宇宙飛行士・秋山豊寛

1989（平成元）年　ベルリンの壁崩壊

1990（平成2）年　東京サミット開催・中曽根康弘内閣

1991（平成3）年　湾岸戦争開戦

1993（平成5）年　自神山地が日本初の「世界遺産」に登録

1995（平成7）年　阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件
「たまごっち」「ポケモン」流行

1996（平成8）年　ロッキード事件

1997（平成9）年　王貞治、ホームラン756号
世界新記録達成

1998（平成10）年　第18回冬期オリンピック長野大会開催

2000（平成12）年　米で同時多発テロ発生

2001（平成13）年　第2回サッカー日韓共同開催

2002（平成14）年　サッカー日韓共同開催
FIFAワールドカップ

2004（平成16）年　イチロー、米大リーグで84年ぶりの最多安打記録更新

2005（平成17）年　「愛・地球博」開催
日本国際博覧会

2006（平成18）年　米国統計局の「世界人口時計」による世界の推計人口が65億人を突破

2008（平成20）年　北京オリンピック大会開催

2009（平成21）年　東日本大震災

2011（平成23）年　東京スカイツリー開業

2012（平成24）年

パイロット万年筆の世界への航跡

当社創業者の並木良輔と和田正雄が、自らつくりあげた製品を世界に紹介するために、国産金ペンの蒔絵万年筆を手に、横浜港から出航したのは1925（大正14）年4月。万年筆開発から10年の歳月が流れていました。訪問先のアメリカ、ヨーロッパ、アジアの一流百貨店や高級品専門店では、万年筆の品質の高さと蒔絵の美しさが高く評価され、ふたりは国産万年筆の輸出に自信を深めたのでした。そして早くも翌々年には、ニューヨーク、ロンドン、上海、シンガポールに支店、出張所を設けて社員を派遣し、本格的な海外進出を果たします。その後、インド、ビルマ、インドネシア、そして中南米にも進出し、世界の強豪メーカーと堂々とわたりあったのでした。

ロンドン支店陳列室

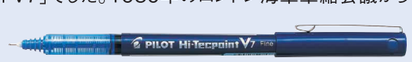
歴史の中のパイロット

ロンドン海軍軍縮会議と蒔絵万年筆

ロンドン海軍軍縮会議は、列強海軍の艦船保有数を制限するために、イギリス首相ラムゼイ・マクドナルドが提唱して1930年にロンドンで開催されました。参加国は日本、アメリカ、イギリス、フランス、イタリアの五カ国。4月22日の調印式で全権が調印に使用したのが、パイロットの蒔絵万年筆です。世界平和の舞台を「書く」ことで支えた蒔絵万年筆は、この調印式によって世界中の人々に知られるようになりました。

オスロ合意と水性ボールペン

1993年9月、イスラエル・パレスチナ紛争における和平への取り組みとして、イスラエル政府とPLO（パレスチナ解放機構）による暫定自治原則合意、通称「オスロ合意」が調印されました。調印に際しイスラエルのラビン首相は、用意されたペンを手に取ることなく、自らの胸ポケットから1本の水性ボールペンを取り出します。それが、パイロットの「ハイテックポイントV7」でした。1930年のロンドン海軍軍縮会議から60年以上の時を隔てて、再び国際平和の舞台で身近なパイロット製品が活躍しました。

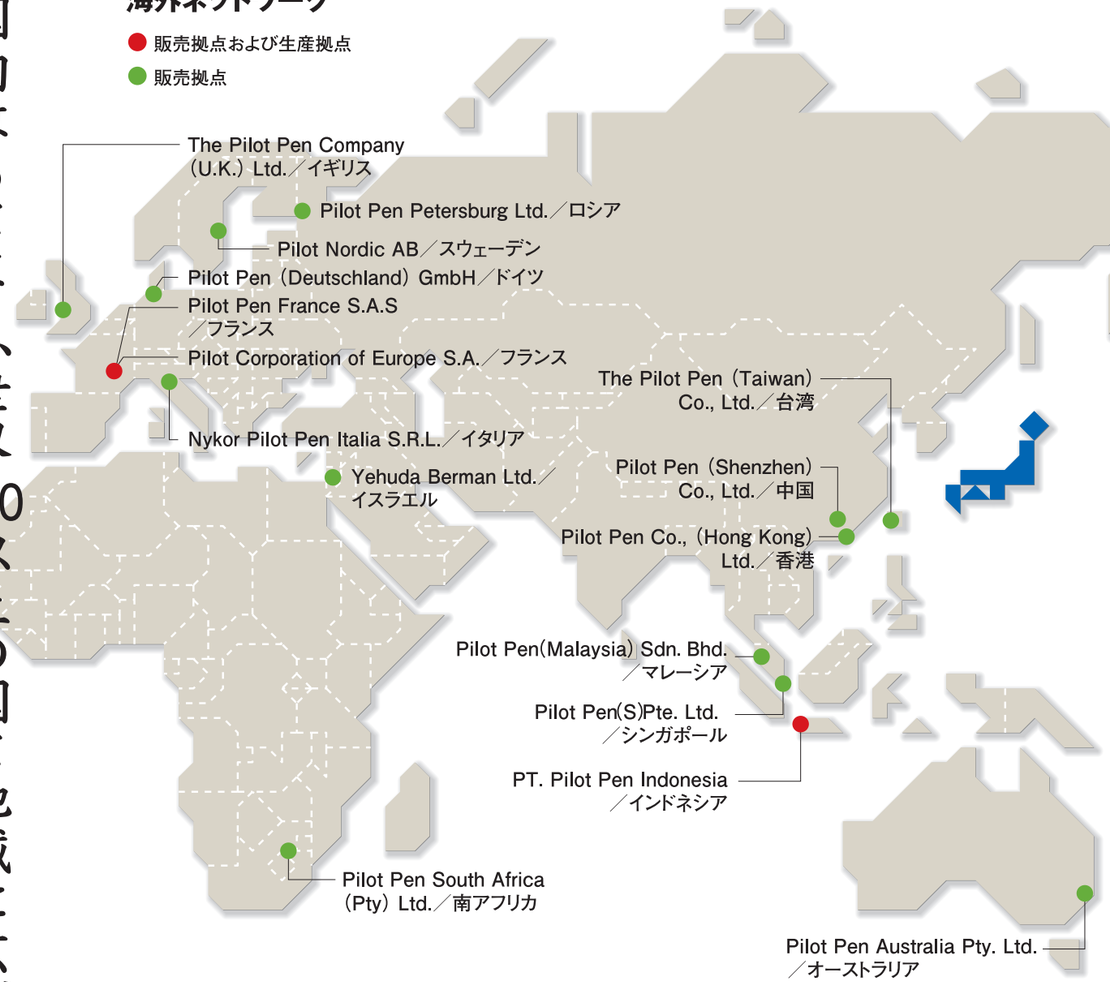


署名で使われた「ハイテックポイントV7」

日本国内はもとより、世界190以上の国と地域に広がるネットワーク。

海外ネットワーク

● 販売拠点および生産拠点
● 販売拠点



すべての人の「書く」を支えるために、私たちはパイロット製品をお届けするネットワークを、
日本のみならず、全世界に展開しています。
日本国内では、各地に販売拠点を開設。当社自身による直販で、
きめ細やかな販売活動を行うとともに、市場の声を直接受け止め、
開発や生産に生かしています。
海外では、主要各国に販売会社を開設するとともに、
全世界ほぼすべての国に代理店を置き、地域に密着した営業活動を展開しています。
高品質・高機能な高付加価値商品を生み出す主要な開発・生産拠点は、日本です。
絶え間ない技術開発と徹底的な品質管理のもと、
全世界で販売する製品を生産するとともに、
海外工場へ製品の主要機構を供給しています。
これら開発・生産・販売のネットワークにより、
世界レベルでの万全のサポート提供が可能となり、
PILOTブランドの信頼性を揺るぎないものとしています。

国内ネットワーク

本社・販売拠点

本社（東京都中央区）

東部支社（東京都中央区）
神奈川営業所
静岡営業所
北関東営業所

北海道営業所（北海道札幌市）

東北支社（宮城県仙台市）

中京支社（愛知県名古屋市）

西部支社（大阪府大阪市）
中四国営業所
四国営業事務所

九州支社（福岡県福岡市）
沖縄営業所

生産・開発・物流拠点

伊勢崎工場（群馬県伊勢崎市）

伊勢崎第二工場（群馬県伊勢崎市）

平塚工場（神奈川県平塚市）

湘南開発センター（神奈川県平塚市）

パイロットインキ株式会社（愛知県名古屋市）

株式会社パイロットロジテム（神奈川県平塚市）

地球と、社会と、パイロットのつながり。

地球や社会のために、パイロットができることは何か。
企業活動を通じて環境に与える負荷を低減することはもちろんですが、私たちは一つひとつの製品づくりを通じて、地球のためにできることを続けています。
また、創業以来100年以上にわたり筆記具をつくり続けてきた当社の歴史は、「書く文化」の歴史でもあります。私たちが所蔵する資料により、「書く文化」を広くご紹介することで、少しでも社会のお役に立ちたいと考えています。

「ビグリーン」は、パイロットの環境配慮型・世界ブランドです。

BEGREEN
Positive with the Planet

廃棄物を削減し、限りある資源を有効活用するなど、循環型社会の実現に貢献するものづくりが求められています。パイロットは、本体に家電・OA製品等のリサイクルによって生まれた再生材を使用した、環境配慮商品の販売を1997年に開始しました。2006年からは他社に先駆け欧州に販売を拡大。世界中に向けて環境にやさしい商品の販路を拡大しています。

●再生材の使用
使用済みの容器、廃プラスチックをリサイクル利用。ボールペン・シャープペンシル・マーカー等の本体部品として生まれ変わります。工場内で発生するスクラップも再利用。資源を有効活用しています。

ここまでリサイクルでつくりました。

【再生PP樹脂使用】

●インキの詰め替え・補充型製品の開発
使い切り製品を見直し、不燃物廃棄量を削減する「インキの詰め替え・補充型製品」の開発を行っています。使いやすさと機能を高めつつ、人にやさしく、地球に優しく。それがパイロットの求める品質です。

インキもペン先も交換可能

インキの補充が簡単なカートリッジ式。　ペン先も交換可能。

ISO14001認証を取得。

パイロットは「環境理念」のなかで、地球環境の保全に配慮することを重要な経営課題の一つと位置づけ、企業活動の指針となる「環境指針」を定めるとともに、国内外においてパイロットグループの生産拠点を中心に、環境マネジメントシステムの構築およびISO14001の認証（審査登録）取得をすすめています。
私たちがめざすのは、地球に優しい企業です。

EMS ISO 14001　MS CM001

JSAE476 生産部門(伊勢崎工場、伊勢崎第二工場、東松山事業所、平塚事業所)

JASE358 パイロットインキ(株)津工場・東郷工場

日本の美しい技を世界へ、そして次世代へ。

パイロット創業当時、万年筆の軸材にはエボナイト(ゴムと硫黄の化合物)が使われていました。エボナイトには、しばらく経つと変色・劣化するという欠点があり、それを防ぐために、万年筆の表面に漆を塗る技術を開発し、「ラッカナイト」という名称で1925年に特許を取得しています。漆は、どれほど時間が経っても変色せず手にしっとりとなじむ、日本の優れた塗料でした。さらに、漆塗りの万年筆に日本の伝統工芸の蒔絵を施し、工芸品の域にまで高められた蒔絵万年筆の製作を開始。欧米への販路を広げていきました。
そして後の人間国宝、松田権六氏が蒔絵指導者として入社、社内外の蒔絵師70余名を招き、作家集団「國光會(こっこうかい)」を組織しました。
「蒔絵は国の光である」として並木が命名した國光會と蒔絵万年筆の技は脈々と受け継がれ、世界中のコレクターを魅了すると同時に、日本が誇る漆工芸の素晴らしさを世界に広げています。

蒔絵工房 NAMIKI

2015年1月、平塚工場(神奈川県平塚市)内のかつては旧第二海軍火薬廠(しょう)として使用されていた大正後期の煉瓦造りの建物を改装し、「蒔絵工房 NAMIKI」を開館いたしました。
大正15年(1926年)に前身の株式会社並木製作所として蒔絵万年筆の販売を開始して以来、日本古来の伝統工芸である蒔絵技術を100年にわたり継承してきた、パイロットの蒔絵万年筆を中心に約100点の貴重な漆芸品や歴代のポスターなどの資料を展示し、一般公開しています。

蒔絵工房 NAMIKI
見学をご希望の方は、お電話にて事前にご予約をお願いいたします。

入　　場：無料(要予約)
開館時間：月～金／10:00～12:00、13:00～16:00
休 館 日：土・日・祝日、年末年始、夏季休暇
当社創立記念日(10月1日)
※都合により臨時休館する日があります。
所 在 地：〒254-8585
神奈川県平塚市西八幡1-4-3
株式会社パイロットコーポレーション
平塚工場 内

予約・お問い合わせ先：
「蒔絵工房 NAMIKI」　TEL 0463-35-7069

トップメッセージ

日本の産業が今のように発達する以前の1918年、船乗りであった創業者が「日本から世界に誇れるもの」をつくりたい、という思いで国内初の純国産万年筆の製造・販売を開始したことが当社の始まりです。以来、「書く」という文化の一端を担い続けて100年以上、今では総合筆記具メーカーとして万年筆をはじめボールペン、シャープペンシルなどのさまざまな筆記具を世界190以上の国と地域で販売しています。

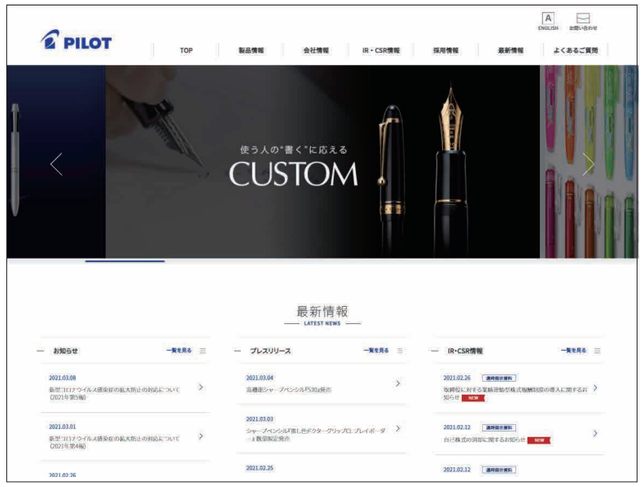
「書く」という行為は、思考や創造など、人間らしい文化と深く関わっています。私たちパイロットは、「ドクターグリップ」や「フリクション」など、既成概念に捉われない商品を開発することで、それぞれの時代に合った「書く」を支え、皆様の“考えること”“創り出すこと”へのお手伝いをさせていただいてまいりました。

近年は少子化に伴う国内市場の縮小や、世界的に進むデジタル化などの影響で筆記具を取り巻く環境は大きく変化し、またそれにつれて人々の生活スタイルや考え方、働き方・学び方も変わろうとしています。その中で当社は、デジタル化された社会と共存する「書く」ことの価値とは何かを常に考えながら、顧客視点からのものづくりを継続し、加えて「書く」ことの楽しさを感じられるような体験も併せてご提供することで、皆様の毎日を豊かにしていきたいと考えています。当社は、今後とも最高の満足をお客様に提供できるよう、創業以来培われてきた技術力を礎に、新しい発想を積極的に取り入れながら進化しつづけてまいります。

代表取締役社長
社長執行役員　伊藤　秀

ホームページのご案内　www.pilot.co.jp

当社ホームページでは、製品情報をはじめ、様々な情報を掲載しております。



トップページ

ロゴの変遷

（現在の社章）

大正、昭和、平成とさまざまな時代を経験し、多くの人に親しまれてきたパイロット。各時代に合わせ、ロゴマークも変遷してきました。お客様から信頼される筆記具を製造し、販売してきたパイロットの誇りを象徴しています。

大正7年創業時	トッロチパ Pilot	並木製作所として東京巣鴨に創立。
大正8年～昭和13年	筆年萬トッロチパ PILOT	関東大震災にも負けず、国内販売を主に活動しながら、海外でも特許を取得する。
昭和14年～昭和33年	パチロット 高級萬年筆 PILOT Pilot	昭和13年6月、社名をパイロット萬年筆株式会社と改め、戦後の混乱を乗り切る。
昭和34年～昭和64年	パチロット PILOT パチロット Pilot PILOT PILOT	東京オリンピックによる好景気の中、東証一部上場する。
平成元年～平成10年	PILOT	平成元年を迎え、社名を株式会社パイロットに変更。
平成10年10月～	PILOT	新コーポレートシンボル・ブランドロゴタイプを全世界で展開。